

北陸新幹線レポート 《第13号》

～響くつち音、広がる未来～

令和3年11月29日発行

本レポートでは、県民のみなさんに100年に1度のプロジェクトである新幹線事業を見て、感じていただけるよう、今しか見ることができない工事の状況をはじめ、北陸新幹線に関する様々な情報を随時提供していきます。

金沢駅から敦賀駅までがつながりました！

8月末に、福井市内で最後のコンクリート打設が完了し、**金沢駅から敦賀駅までの約125 kmがつながりました**。平成26年6月に新北陸トンネル（奥野々）工区において土木工事に着手してから、**約7年2ヶ月の歳月**をかけ、ようやく1本のルートとなりました。

高架橋やトンネルなどの土木工事はほぼ完了し、**現在、レールを敷く軌道工事や駅舎の建築工事、車両に電気を送るための架線を支える電柱の設置などの設備工事が本格化**しています。

令和5年10月頃にはこれらの工事が終了し、車両の試験走行が始まる予定です。



H20.5時点（福井市文殊山周辺）



R3.10時点（福井市文殊山周辺）

敦賀駅の建築工事が始まりました！

敦賀駅の工事は、7月にホームの土台となる橋桁工事が終わり、**予定を1ヶ月前倒して9月6日より、東側駅前広場の出入口となる東口棟の杭工事に着手し、駅舎の建築工事が本格的にスタート**しました。これで金沢・敦賀間の全ての駅の建築工事が始まったこととなります。

現在、東口棟の建築工事と並行し、レールを敷く軌道工事や、2階部分の内装・外装工事等が行われています。今後、令和4年3月にホーム上屋の鉄骨建て方工事に取りかかり、**令和5年春頃には外観が見えてくる予定**です。



大規模施設見学会を開催し、延べ1,500名が参加しました！

8月から11月にかけて、芦原温泉駅、越前たけふ駅、福井駅、敦賀車両基地の県内4か所で県民を対象にした大規模な施設見学会を開催しました。定員を大幅に超える応募の中、厳正なる抽選の結果、当選した1,500名の親子が参加しました。

参加者は、鉄道・運輸機構の職員から駅舎などの説明を受けた後、コンコースやホームなどを自由に見学し、今しか見ることができない現場を撮影したり、会場内3か所に設置された北陸新幹線に関するクイズに挑戦するなど、思い思いに見学を楽しみました。



8/29 芦原温泉駅
(ホーム階の見学)



9/19 越前たけふ駅
(コンコースの見学)



10/17 福井駅
(鉄道・運輸機構による説明)



11/7 敦賀車両基地
(車両基地の見学)

新幹線変形ロボ シンカリオンZと福井県がコラボ！



北陸新幹線福井・敦賀開業まであと2年半と迫るなか、福井県では人気テレビアニメ『新幹線変形ロボ シンカリオンZ』とコラボし、「新幹線とシンカする福井の未来」をテーマに描かれた絵画を募集するキャンペーンを実施しています。(令和4年1月10日まで)

また、福井の魅力を紹介する動画もYouTubeに公開されていますので、是非ご覧ください。



詳しくはこちらから

福井県並行在来線経営計画を策定しました

福井・敦賀開業時にJR西日本から経営分離され、地域の第三セクター会社によって運営される県内並行在来線（現北陸本線）について、その経営の指針となる「経営計画」が、10月26日に開催された「福井県並行在来線対策協議会」※において決定されました。※県、市町、経済団体、利用者団体等で構成

今後は、この経営計画に基づき第三セクター会社において具体的な開業準備を進め、令和6年春には、県民に親しまれ、利便性の高いサービスを提供する新しい県民鉄道として運行をスタートします。

みんなの県民鉄道として、積極的にご利用していただくなど並行在来線の応援をお願いします。

《経営計画の概要》

計画の基本事項

①基本理念

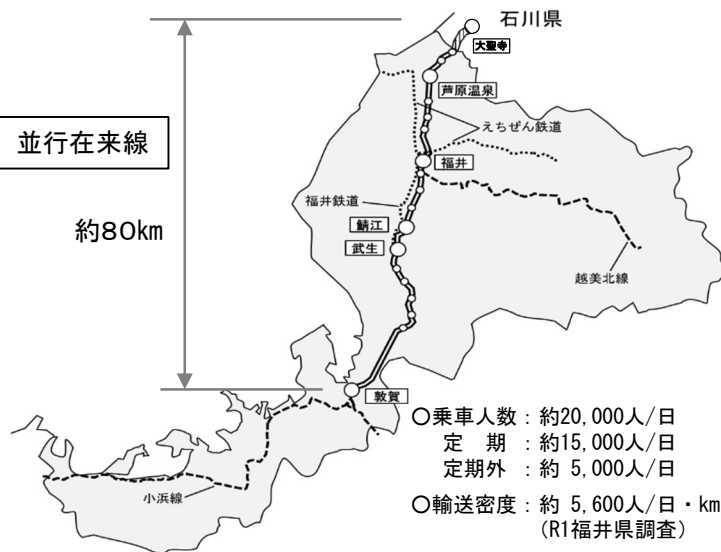
輸送の安全・安心を最優先に、地域に密着した「県民鉄道」へと一新し、輸送サービスの提供を通じて地域振興等に寄与します。

②経営主体

令和元年度に県・市町・民間の出資により設立した第三セクター「福井県並行在来線準備会社」が上下一体経営を行います。

③地域鉄道との連携

並行在来線と福井鉄道、えちぜん鉄道の3社が連携し、経営強化を図り、持続可能な鉄道サービスを提供します。



運転計画

○並行在来線開業後は、本県単独会社による普通列車を中心とした運行となることから、本県の実情に応じ、県民にとって利便性の高いダイヤを提供します。

①運行本数

通勤・通学時間帯を中心に、現在の102本/日から126本/日程度に約24本増便します。

②快速列車の運行

通勤・通学の所要時間の短縮、現在の特急利用に代わる利便性確保のため、新たに快速列車を運行します。（増便のうち8本程度）

③その他

パターンダイヤ化、地域鉄道やバスとの接続利便性の確保など、分かりやすく、利用しやすいダイヤにします。



(JR提供データ)

運賃水準

○本県並行在来線は、北陸三県のなかで最も輸送密度が低く、厳しい経営が見込まれますが、利用促進に取り組み、概ね近隣県並みの運賃水準に据え置きます。

券種	1～5年目（激変緩和）	6～11年目
定期外	1.15倍	1.20倍
通勤定期	1.15倍	1.20倍
通学定期	1.05倍	1.05倍

利用者数の目標

○並行在来線の利用者数は、沿線の人口の減少により、10年間で約10%の減少が見込まれますが、県、市町、企業、地域が一体となり、利用促進策に取り組むことで、開業から約10年間、開業時の利用者数を維持することを目標とします。

令和6～16年度 利用者数目標 2万人/日

利用促進策

○並行在来線が将来にわたり安定した経営を維持するため、また、地域に密着した県民鉄道として魅力あふれる鉄道づくりを進めるため、次の利用促進策に県全体で取り組みます。

①利便性の向上

- ・誰もが利用しやすいダイヤ編成
- ・誰もが利用しやすい環境づくり
- ・駅へのアクセス向上
- ・新駅の設定

②駅を中心としたまちづくり

- ・駅を中心とした都市機能の集約
- ・既存駅のモデルチェンジ
- ・駅・駅周辺のにぎわいづくり

③他の交通事業者との連携

- ・地域鉄道やバスなどとの連携

④地域に親しまれる鉄道への転換

- ・会社名の公募
- ・サポーターズクラブの設立など

◇社名公募◇

12月1日から公募開始予定。詳しくは「福井県並行在来線準備株式会社」のHPまたはQRコードから専用サイトをご覧ください。



新幹線の開業効果 ～北陸新幹線 金沢開業編～

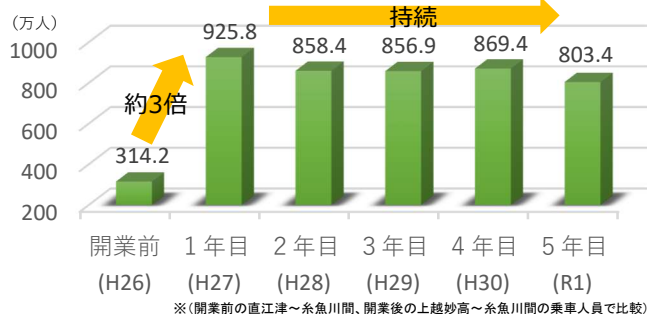
整備新幹線の中でも、北陸新幹線の金沢開業は顕著な効果を示しています。

特急列車の利用者数は開業前の約3倍に増加し、開業の年だけでなく、コロナ禍の影響を受けるまで、5年にわたり持続しました。

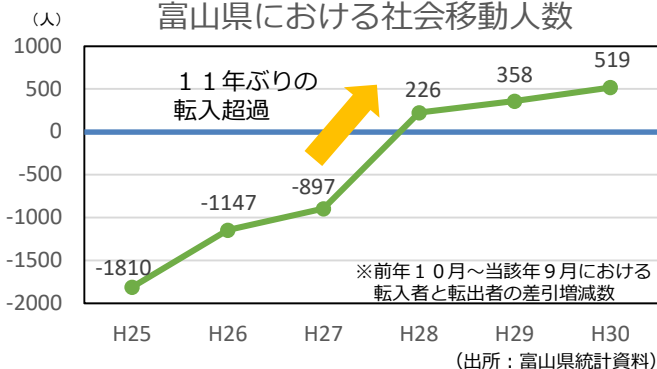
金沢駅周辺では、地価が2倍に上昇したり、ホテルの建設が相次ぎ、また、各地で観光客が増加するなど、その効果は多方面に波及しています。

富山県でも、観光客が増加したほか、大企業が本社機能の一部を東京から移転するなど、県内に事業所等を開設する企業が増えました。また、長年続いてきた人口転出超過が、開業を機に11年ぶりに転入超過へと転換するなど、地方創生にも大きな効果を生み出しています。

北陸新幹線金沢開業後の利用状況



富山県における社会移動人数

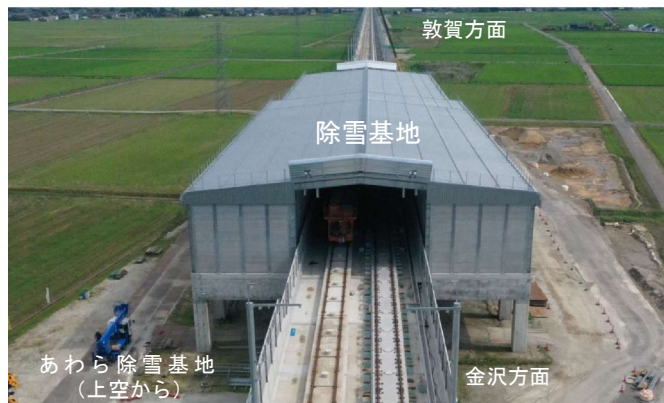


あれはなんだろう？ ～除雪基地編～

あわら市と坂井市を結ぶ県道9号芦原丸岡線を車で走ると目にする駅のような建物。あわら市伊井地区に建設されているこの建物は**除雪基地**です。

この除雪基地は、長さ約122メートル、幅約32メートル、地上からの高さは約18メートルあり、**冬期間に除雪作業車を留置**するための施設として設けられています。基地内は、新幹線が走る線路の両側に留置線が設けられ、除雪作業車が待機できるようになっています。

除雪作業車は、保守基地にも留置できますが、保守基地のみから除雪を行う場合、1つの基地が受け持つ除雪区間が長くなるため、このような施設を間に設けることで、**除雪区間を短くし作業時間を短縮**しています。金沢・敦賀間ではこの他、石川県川北町にも設置されます。



発行：福井県地域戦略部新幹線建設推進課
〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17-1
TEL：0776-20-0298
Email：shinkansen@pref.fukui.lg.jp
写真提供：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、
西日本旅客鉄道株式会社、国土地理院、
(株) アクセルスペース

建設現場の定点写真、広報動画を公式Youtubeで公開中！

福井県 新幹線工事

